

## R8 3年経験者研修

【研修の目的】 2年間の教職経験をもつ教諭に対して、若年教員育成プログラムの一環として、学習評価を生かした学習指導力の向上を図る。

【研修目標】 研修を通じて、参加者に**気付き**や**変化**がある

参加者が、

- 学習評価を生かした授業改善の方策を学び、学習評価の考え方や役割を理解する。
- 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を行うことを通して、教科等における資質・能力の育成を目指した学習指導力を身に付ける。

＜研修構成＞

- 授業実践研修Ⅰ・Ⅱ
  - ・講師による講義、演習
  - ・教科別グループ別協議
- 授業実践研修Ⅲ（ライブ）
  - ・教科別グループ別協議、実践発表
- 授業実践①（5月～6月）
- 授業実践②（9月～11月）
  - ・公開授業及び研究協議

【参加者の状況】

「学習評価について学びたい」

「授業改善の方向性を見出したい」

- ・授業実践シートやアンケート等による研修効果の把握
- ・学習指導案の変化の見取り

＜研修デザイン上の工夫点＞

- ① 対話の時間の確保
  - ・他者の実践や考えに触れ、自分の考えを語る時間
- ② 内省の時間の確保
  - ・自身の実践を振り返る時間
  - ・自分の気づきに向き合う時間

【研修内容】 研修を通じて、参加者は**何を**学ぶか

授業実践力

- 学習評価の考え方や役割
- 学習評価の分析等をもとにした指導計画や指導方法の工夫・改善（指導と評価の一体化）

【研修方法】 研修を通じて、参加者は**どのように**学ぶか

- 学習評価における自己の課題や課題解決に向かう自己目標を明確にし、授業実践における自己課題を明らかにする。
- 教科別・グループ別協議における他者との対話を通して、これまでの授業実践や学習評価を客観的に捉える。
- 在籍校における授業実践をもとに評価対象物の分析等を通して、授業改善の方向性を見出す。

## R8 中堅教諭等資質向上研修

【研修の目的】 中堅教諭等に対して、教育活動、その他の学校経営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすうえで必要とされる資質の向上を図る。

【研修目標】 研修を通じて、参加者に**気付き**や**変化**がある

参加者が、これまでの教育実践を振り返りつつ、

- ミドルリーダーとしてのチームマネジメント力や実践的指導力の向上を図る。
- カリキュラム・マネジメントの視点に立ち「主体的・対話的で深い学び」を実現する実践的指導力を身に付ける。
- 協働して学ぶことを通して協働性・同僚性を構築する。

＜研修構成＞

- 共通課題研修（Ⅰ～Ⅴ）
- 教科指導研修Ⅰ、Ⅱ
- チーム協働研修
- 選択研修

【参加者の状況】

「採用から9年間の教育実践に個人差が大きい」

「ミドルリーダーとしての在り方を試行錯誤している」

- ・授業レポートや研修アンケート等による研修効果の把握
- ・研修レポートや自己評価票の校長評価等による学校組織への貢献の見取り

＜研修デザイン上の工夫点＞

- ① 高知県教員育成指標と研修の関連を**明確化**
  - ・各研修会における高知県教員育成指標の確認
- ② **ホームグループ**の設定
  - ・イントロダクションとリフレクションの設定

【研修内容】 研修を通じて、参加者は**何を**学ぶか

- チームマネジメント力
  - ・ミドルリーダーの在り方、カリキュラム・マネジメント
- 探究的な学び
  - ・多様な学びを支えるファシリテーション
- セルフマネジメント力
  - ・コミュニケーションスキルと教職員のメンタルヘルス

【研修方法】 研修を通じて、参加者は**どのように**学ぶか

- 講義を通して、最新の教育状況を知る。
- 他の参加者との対話を通して、自らの教育実践を振り返り、自己の強み、弱みを認識する。
- 対話を通して、学校内における自らの立ち位置を顧みることで、ミドルリーダーとしての在り方を考える。

## R 8 発展期教諭等研修

【研修の目的】生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、「新たな教師の学びの姿」の実現を目指し、これまでの教育実践を省察し、自身の考えを捉え直し、教育活動を組織的・協働的に推進できる実践的指導力の向上を図る。

### 【研修目標】研修を通じて、参加者に**気付き**や**変化**がある

- 参加者が、自己の教育実践を見つめ直したり、問い直したりすることで、
- 対話を通して、新しい自己の「在り方」について気付きが深まる。
  - 自らの教育実践の特徴や考えの枠組みについて気付きが深まる。
  - 時代の変化に対応できるよう、探究心をもちつつ、自律的に学び続けようとする。

#### <研修構成>

- 協働探究型研修（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）
  - ・ オンデマンド研修、集合研修
- 実践型研修（4月～2月）
  - ・ 教育実践課題を設定し、在籍校にて実施

#### 【参加者の状況】

- 「新たな教師の学びの姿の具体的な姿をイメージできないまま、日々の業務に追われている」  
「授業観や学習観の転換について、どのように転換していけばよいか試行錯誤している」
- ・ リフレクションや学びの記録
  - ・ 学校組織への貢献の見取り

#### <研修デザイン上の工夫点>

- ① 講義に抛らない30分程度の情報提供
- ② 対話の時間の確保
- ③ ホームグループの設定
- ④ 参加者の見取りを反映させた弾力的な研修デザイン

### 【研修内容】研修を通じて、参加者は**何を**学ぶか

- 探究的な学び
- 教師の協働を生み出すマネジメント
- 多様な気付きを促すファシリテーション

### 【研修方法】研修を通じて、参加者は**どのように**学ぶか

- 対話を通して他者と協働し、自己の価値観を広げ、深める。
- 講師による情報提供や教育実践の読解から、気付き、考え、省察する。
- リフレクションや学びの記録を綴ることを通して、自己の在り方を捉え直す。

## R 8 新任特別支援学級担任研修

【研修の目的】小学校、中学校及び義務教育学校の障害のある児童生徒の教育についての理解を深め、教育内容を充実させるとともに、実践的指導力の向上を図る。

### 【研修目標】研修を通じて、参加者に**気付き**や**変化**がある

- 参加者が、日々の困り感や悩み事の解決に向けて
- 学習指導に必要な基礎的な知識やスキルについて知る。
  - 児童生徒の気になる行動等への指導と支援について実践力を高める。
  - 日々の実践を基に自己課題を整理し、今後の授業改善の視点に気付く。

#### <研修構成>

- 研修Ⅰ・Ⅱ（集合研修）
  - ・ 実態把握と背景、要因分析
  - ・ 特別的教育課程及び授業づくり
- 研修Ⅲ（公開授業）
- 研修Ⅳ（集合研修）
  - ・ 自閉症・情緒障害学級のみ実施

#### 【参加者の状況】

- 「具体的な指導内容が知りたい」  
「気になる行動への対応を知りたい」
- ・ グループ協議等による困り感の把握
  - ・ 授業づくり実践シートにおける変容の見取り

#### <研修デザイン上の工夫点>

- ① 演習・グループ協議の時間の確保
  - ・ 他者の実践を手掛かりとした、自身の実践の振り返り
- ② 授業実践とのつながり
  - ・ 研修における気付きを反映させた日々の授業実践

### 【研修内容】研修を通じて、参加者は**何を**学ぶか

- 特別的教育課程の知識
  - ・ 意義や目的
  - ・ 教科、領域の構成及び特色
- 児童生徒理解の方法
  - ・ 障害特性の理解
  - ・ 背景要因の分析
- 授業構想、授業改善の視点
  - ・ 目標及び内容設定の手順
  - ・ 指導上の配慮事項

### 【研修方法】研修を通じて、参加者は**どのように**学ぶか

- 講義を通して、知識やスキルを新しく知る。
- 参加者との対話を通して、授業実践における悩みを共有し、自己課題を整理する。
- 在籍校における授業実践をもとに、実態把握や効果的な指導・支援方法について検討を重ねる。
- 授業づくり実践シートを活用し自身の変容を客観的に捉える。

## R 8 中堅等資質向上研修〔保育者〕

【研修の目的】 職務遂行に必要なより実践的・専門的な知識・技能を習得・活用するとともに、園務分掌においてミドルリーダーとして中心的な役割を担うことができる資質・指導力の向上を図る。

【研修目標】 研修を通じて、参加者に**気付きや変化**がある

参加者が、日々の保育実践を振り返り、さらなる保育の質の向上につながる保育実践に向け

- グループ演習を通して教材研究を行い、発達に応じた環境構成や援助、指導計画について学び合う。
- 保育実践（ねらい、内容、環境構成、保育者の援助）を持ち寄って協議することで自身の保育実践を振り返る。
- 保育の質向上、保護者支援、人権教育、危機管理、保幼小接続、園内研修の活性化などの講義・演習から新たな気付きを得る。

＜研修構成＞

- 集合研修（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）
  - ・ 課題別演習（Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ）
  - ・ 講義・演習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）
  - ・ 研修のまとめと保育実践の振り返り（Ⅳ）
- オンデマンド研修（Ⅲ）
- 園内研修
  - ・ 公開保育（公開保育・協議・個別指導）
  - ・ ブロック別研修会（他園の保育実践からの学び）

【参加者の状況】

「キャリア相応の保育実践に自信がない」  
「子ども主体の保育を実践したい」

- ・ グループ協議や公開保育（個別指導）での見取りと評価
- ・ 研修後アンケートによる心情変化や目的達成の見取り

＜研修デザイン上の工夫点＞

- ① 田の字法で現状把握
  - ・ 現状の利点、課題、要因の分析による、目指す方向性の明確化
- ② 課題別演習のテーマを決定し年間を通した取組・実践の柱とする
  - ・ 適切な資料提供や演習、指導助言を通じた、研修と実践の往還の促進

【研修内容】 研修を通じて、参加者は**何を学ぶか**

- 保育の質向上につながるための保育改善の視点
  - ・ 子ども理解 ・ 指導計画の立案 ・ 記録のとり方
  - ・ 環境構成 ・ 保育者の援助
- ミドルリーダーとしての役割
  - ・ 保育実践リーダーとしての資質、指導力
  - ・ 研修リーダーとしての役割

【研修方法】 研修を通じて、参加者は**どのように学ぶか**

- 講師による講義・演習を通して、新しい知見を得る。
- グループ協議を通して、保育実践を振り返り、新たな課題に気付く。
- 日々の保育において、課題を意識して実践を行い、研修毎にその成果や課題を確認する。
- 他の参加者の考えや実践、他園の公開保育から保育改善の方向性を見出す。

## R 8 任用2年次教頭研修 課題解決研修

【研修の目的】 所属校の教育課題の現状を校長とともに把握したうえで、教頭職として教育課題の解決に向けて取り組むOJTの過程を通して、管理職としての資質向上を図る。

【研修目標】 研修を通じて、参加者に**気付きや変化**がある

参加者が、自己のマネジメントの実践を振り返りながら、

- 自校の教育課題を客観的指標や様々な方法で分析し、実効性のある学校経営計画を策定・運用する力を高める。
- 自校の教育課題に対して、本質的な原因を洞察し、状況に応じた最適な解決策を導き出す判断力、および組織への発信力を高める。
- 自己の実践を振り返り、自己啓発と他者との協働を通じて管理職としての資質を自律的に高め続ける姿勢をもつ。

＜研修構成＞

- 集合研修（2回）
  - ・ グループ協議 / 実践発表
  - ・ 講師による講義・演習
- 在籍校での実践
  - ・ 計画をもとにマネジメントの実践
  - ・ 研修計画書・中間報告書・最終報告書
  - ・ 校長によるOJT

【参加者の状況】

「マネジメント力を高めたい」  
「自校の教育課題を解決したい」

- ・ 力量形成アンケート等で把握
- ・ 研修計画、報告書等による見取り

＜研修デザイン上の工夫点＞

- ① 集合研修と在籍校の往還的な取組
  - ・ PDCAサイクルによる実践
  - ・ 異校種間での実践発表・グループ協議による実践の客観化
- ② 校長によるOJT
  - ・ 校長からのミッションの付与
  - ・ 日常的指導、評価等

【研修内容】 研修を通じて、参加者は**何を学ぶか**

- SWOT分析等による教育課題の把握・分析方法、PDCAサイクルの運用方法、リーダーシップやマネジメントの基礎知識・スキル
- 課題の本質をデータや事実に基づいて見抜く分析・思考プロセス
- 解決策を立案し、組織全体を動かすための合意形成の手法

【研修方法】 研修を通じて、参加者は**どのように学ぶか**

- 校長のミッションを踏まえ、重点目標を設定し、具体的な取組や手立ての計画を立てる。
- 計画をもとに、マネジメントを実践する。
- 講師の講話や他の参加者との多角的な対話を通して、実践の成果と課題を客観化し、必要に応じて計画を修正する。
- 修正した計画をもとに、マネジメントを実践する。
- 取組を振り返り、総合評価を行うことで自身の成長と課題を明らかにし、徹底的に実践をブラッシュアップしていく。

## R 8 教科研究センター基礎講座

【研修の目的】 高知県の教職員及び教育職を志す人を対象に、授業づくりに関する講座を実施し、授業における基礎的・基本的な学習指導力を育成する。

【研修目標】 研修を通じて、参加者に**気付き**や**変化**がある

- 参加者が授業実践を振り返り、日々の困り感や悩み事の解決に向けて
- 基礎的・基本的な学習指導に必要な知識やスキルについて新しく知る。
  - 児童生徒の主体的・協働的な学びを促す授業デザインや工夫の視点について新しく知る。
  - 自身の授業実践における生徒観や指導観等を多面的に捉え直し、授業改善の視点に気付く。

＜研修構成＞

- 基礎講座Ⅰ・Ⅱ（6月）
  - ・授業づくりの基礎基本
  - ・授業づくりで大切にしたいこと
- 基礎講座Ⅲ・Ⅳ（12月）
  - ・特別支援教育の視点に立つ授業づくり
  - ・協調学習の授業づくり

【参加者の状況】

- 「学習指導に必要な知識やスキルを高めたい」  
「授業改善の方向性を見出したい」
- ・グループ協議及び事後アンケートによる目的達成感の見取り

＜研修デザイン上の工夫点＞

- ① 演習・グループ協議の時間の確保
  - ・他者の実践や考えを手掛かりとした自身の授業観の更新と深化の促進
- ② 異校種からなるグループ編成
  - ・異校種間での情報共有を通じた指導内容や指導方法の多面的、系統的な理解の促進

【研修内容】 研修を通じて、参加者は**何を学ぶか**

- 基礎的・基本的な学習指導に必要な知識やスキル
  - ・学習指導案の書き方
  - ・授業の組み立て方（教材研究、知識構成型シグソー法等）
  - ・授業における指導技術（板書、発問等）
- 授業改善の視点
  - ・特別支援教育の視点
  - ・異校種の指導内容や指導方法の視点

【研修方法】 研修を通じて、参加者は**どのように学ぶか**

- 講師による講義を通して、知識やスキルを新しく知る。
- 講師や他の参加者との対話を通して、これまでの授業実践を客観的に捉える。
- 演習中のアウトプット及び授業実践等を通して、獲得した知識やスキルを活用し、より深い理解につなげる。

## R 8 外国語スキルアップ研修

【研修の目的】 集合研修及び授業実践を通して、児童・生徒の英語による発信力を育成するための教員の指導力の向上を図る

【研修目標】 研修を通じて、参加者にどのような**気付き**や**変化**があるか

- 参加者が、自身の授業実践を振り返りながら、
- 効果的な外国語の指導に必要な知識やスキルについて新しく知る。
  - 外国語の指導の特徴や授業デザイン、指導のプロセス等の考え方について気付く（深める）。
  - 自身の授業実践における生徒観や指導観等について気付く（深める）。

＜研修構成＞

- 集合研修（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）
  - ・講師による講義演習（Ⅰ・Ⅲ）
  - ・グループ協議 ・実践交流
- 授業実践（公開授業）
  - ・ポートフォリオ

【参加者の状況】

- 「児童・生徒の表現力を高めたい」  
「授業改善の方向性を見出したい」
- ・集合研修事前アンケート等による困り感や疑問等の把握  
・グループ協議での見取り  
・事後アンケート等による分析・考察

＜研修デザイン上の工夫点＞

- ① 対話の時間・内省の時間の確保
  - ・他者の実践や考えに触れ、自分の考えを語る時間
  - ・自分の気付きに向き合う時間
- ② 対話や内省に深まりをもたらす問いかけ
  - ・実践内容、その背景、価値観等

【研修内容】 研修を通じて、参加者は**何を学ぶか**

- 児童・生徒の発信力を高めるために効果的な外国語（英語）指導を行うために必要な**知識やスキル**
  - ・言語活動を通じた指導 ・単元（授業）の組み立て方
  - ・「話すこと」「書くこと」の指導 ・技能統合型言語活動
  - ・語彙指導 ・パフォーマンス評価、学習評価
  - ・「聞くこと」「読むこと」の指導
- 外国語（英語）指導の特徴やプロセス等の捉え方や考え方

【研修方法】 研修を通じて、参加者は**どのように学ぶか**

- 講師との対話を通して、知識やスキルを新しく知る。
- 講師との対話や他の参加者との対話を通して、これまでの授業実践を客観的に捉える。
- 自己との対話（内省）を通して、授業実践の特徴や考え、英語指導者としての在り方等について考える。
- 授業実践を通して、得た知識やスキルに慣れる。